

2025 年 自己点検・自己評価報告書

2024 年度実施分に対する評価

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

- 1- 1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1- 2 学科の特色は何か
- 1- 3 学科の将来構想を抱いているか

基準 2 学校運営

- 2- 4 運営方針は定められているか
- 2- 5 事業計画は定められているか
- 2- 6 運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか
- 2- 7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 2- 8 意思決定システムは確立されているか
- 2- 9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基準 3 教育活動

- 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応するニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
- 3-14 授業評価の実施・評価体系はあるか
- 3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 3-17 資格取得の指導體制があるか
- 3-18 教育活動においてデジタルツールを活用しているか

基準 4 教育成果

- 4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
- 4-20 資格取得率の向上が図られているか
- 4-21 退学率の低減が図られているか
- 4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

基準 5 学生支援

- 5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 5-29 保護者と適切に連携しているか
- 5-30 卒業生への支援体制はあるか
- 5-31 学生の多様性（障害を持つ学生、日系人・外国人学生、外国人留学生等）への対応が適切に行われているか

基準 6 教育環境

- 6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 6-34 防災に対する体制は整備されているか

基準 7 学生の募集と受け入れ

- 7-35 学生募集活動は、適正に行われているか
- 7-36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 7-38 学納金は妥当なものとなっているか

基準 8 財務

- 8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 8-41 財務について会計監査が適正におこなわれているか
- 8-42 財務情報公開の体制整備はできているか

基準 9 法令等の遵守

- 9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

基準 10 内部質保証

- 10-45 教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

基準 11 社会貢献・地域貢献

- 11-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
11-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
11-48 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

基準 12 国際交流

- 12-49 留学生の受け入れに適切に対応し、管理体制を整備しているか

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか。	明確に定めている。	学則に謳うとともに、明確に定められた理念・目的・育成人材像は、入学時に配布するマイキャンパスガイドブックに記載し全学生・保護者に示している。	
理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか。	持っているが毎年見直しが必要。	各教科のカリキュラムや就職指導などが、理念・目的・育成人材像に沿ったものとなるよう職員会議で計画をたて協議決定するなどし、工夫・実現を図っている。また専門教育質向上委員会、学校関係者評価委員、教育課程編成委員の意見等を参考に取り入れている。	理念や組織についての研修を行い、職員ひとりひとりが改めて考える必要がある。専門教育質向上委員会にて課題提議をし、解決に向けての協議を毎月行っている。
理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか。	毎年、見直しを行っている。	時代変化に応じたものとなるよう職員会議で協議決定している。また、専門分野の意見を取り入れられるよう組織的に協議を行っている。	
理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか。	教職員・学生・保護者に向けてキャンパスガイドブックに記載して公表している。	教職員・在学生・保護者に対し、これらを明記したキャンパスガイドブックをホームページに公開している。また、スクールメールにて発信している。新入生に対しては、新入生研修において周知している。	教職員・学生・保護者に対して内容の周知をしていく。また、本自己点検の公表により、理念・目的・育成人材像を広く公表していく。

1-2 学科の特色はなにか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	ビジネス分野の資格を多数取得できる。資格試験に即した授業、実践的な授業が充実したカリキュラム編成。	地元企業の経営者の方々の講話を年間10社（団体）実施している。 行政、企業、地域団体と連携した実践的な授業を行っている。連携する中で地域課題を解決するために必要な知識や技能を提案いただき、簿記、FPなどの資格取得に生かしている。 進化思考、デジタルマーケティング、生成AI等に関する授業を導入している。	時代の変化に対応すべく魅力ある授業を行っていく必要がある。 文部科学省が推進しているアントレプレナーシップ教育（企業に関する専門知識だけでなくそのためのマインド醸成も含む幅広い概念）を推進していく。

1-2 学科の特色はなにか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	医療現場のニーズに合わせた教育の実施。 多様な資格取得ができるカリキュラムの編成。	医療機関の現場で得た求める人材の情報を、授業を通して伝えている。 また長年にわたり培われてきた指導ノウハウにより指導方法が確立されている。	専門性の高い医療事務の資格取得を継続しながら、一般企業でも活躍できるビジネススキルを身につける。

1-2 学科の特色はなにか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	実際の試験内容に対応したカリキュラム編成。	様々な試験データを基に試験対策の授業を実施している。特に、模擬試験は半年間で22回実施している。 官公庁の方に業務や採用についての説明会、就職ガイダンスを本校のために行っていただいている。	2年課程の強みを活かして難易度の高い公務員試験に合格させる。

1-2 学科の特色はなにか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	実際の試験内容に対応したカリキュラム編成。	様々な試験データを基に試験対策の授業を実施している。特に、模擬試験は半年間で22回実施している。 官公庁の方に業務や採用についての説明会、就職ガイダンスを本校のために行っていただいている。	1年課程で公務員合格しなかった学生を2年課程に転科させ当初の目標である公務員試験に合格させる。

1-2 学科の特色はなにか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	動物分野で幅広く活用できるスキルを習得。	動物分野での仕事内容が多様化していく中で、美容・看護・訓練・愛護と幅広く学ぶカリキュラムを編成しており、様々なニーズに対応できる人材を育成している。ひとつひとつの内容が希薄にならないよう授業内容や指導方法を工夫して2025年度よりペットエステの資格の授業を導入した。	動物分野の専門学校は増えておりトリミングを強化しないと全国大会で入賞が難しくなってきた。このことからトリミングの授業時間確保が必要。また、指導者の技術力アップ、補習も積極的に行う必要あり。

1-2 学科の特色はなにか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	現場のニーズに即した IT の最新技術を使った実習や演習を実施。 また、1年次の早い段階から明確な職業観をもてるような指導体制が整っている。 IT 業界で幅広く活躍できるカリキュラムが整っている。	地元のエンジニアと頻繁に情報交換を行う中で現場の業務の様子や、最新のプログラミング言語の記述方法の主流などの情報収集を授業内容に取り入れている。また、教員に Ruby 技術者認定試験取得者があり、高度な資格取得のための細やかな対応が可能となっている。 地元の IT 企業の方が講師となり特別授業を実施している。IT 業界での AI 技術活用が必須となっているため、最新の AI 技術等を授業に取り入れる時間を設けている。	より高度な資格取得のために、教員が教授方法について研究を行っている。 IT 教員で国家資格の未取得者は、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験を取得する。

1-2 学科の特色はなにか (こども総合学科)

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 実践力のある保育者を目指し、グループ園や本校併設の附属認定こども園と連携した授業を行い、現場に即した授業内容を実施。	施設設備、機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。グループ内の幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の教育指導内容を参考に実践的な内容が学べる独自科目を取り入れている。本校併設の坪内学園附属認定こども園との連携授業も実施。	最大の強みである坪内学園附属認定こども園の授業を更に深化させる。両施設の責任者、担当者による事前調整を行いもう一段上の学びとなるようにしていく。

1-2 学科の特色はなにか (国際自動車整備士学科)

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。企業との連携授業である、インターンシップ実習や新技術講習など、本校独自の教育を実施し、即戦力となる人材育成と最新知識の習得を図った。	インターンシップや出前講座、企業奨学金など企業とのつながりが非常に強い。 メーカーにとらわれない幅広い車種を実習に使用している。自動車教員の半数以上が自動車整備士1級の国家資格取得者であるなど自動車整備士の指導者としての資質が高い。	教員のうち自動車整備士1級未取得者については、資格取得に向けて勉強中である。既に取得している者については、さらなる知識・技術の習得のため本校の教育内容に即した高度資格を取得するなど各自研鑽中である。

1-2 学科の特色はなにか (国際観光ビジネス IT 学科)

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	2024年度から留学生専科として開講。現場のニーズに即した教育、目標とする検定合格に向けたカリキュラム編成、企業との連携授業であるインターンシップ実習を実施。	留学生が国家検定のレストランサービス技能検定の合格を目指しており、本校は HRS 承認校に認定されている。専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。	留学生がレストランサービス技能検定合格を目指して勉強中である。今後は特定技能試験合格に向けたカリキュラムを取り入れるなど、教育内容を深化させる。

1-2 学科の特色はなにか (国際日本語学科)

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の特色として挙げられるものがあるか。	日本語能力向上を目指したカリキュラム編成。 日本人学生との交流や、島根ならではの文化体験ができる。 国際日本語学科卒業後のビジョンが描きやすい環境を整えている。	日本語レベル別にクラス編成を行い、効率的に日本語力を向上できるカリキュラムを整えている。スポーツ大会や学園祭などの学校行事に日本人学生とともに参加している。また、校外学習を通して松江の風景文化や歴史に触れる体験授業も設けている。内部進学可能な国際自動車整備士学科、国際観光ビジネス学科、IT学科を設置し、専門課程の見学や体験授業、留学生に特化したオープンキャンパスを行い、進路について考える機会を設けている。	入学時の日本語レベルが低い学生に対し、卒業までにN3レベルまで引き上げる指導方法を確立させることが課題。補習等を行い、不足している学習時間を補てんする。また、学生の特性に合わせたきめ細かい指導を行っていく。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	地域の景気動向により入学生数が左右されており不安定である。	景気が良い時は、高卒の就職率が高くなり入学生数が困難となる。逆に景気が悪い時は、高卒の就職率が低くなり入学生数が増加する。 2024年度入学生より地域経済学科と医療事務学科を統合し、2年次よりコース分けをすることにより学科の再構築を図っている。	魅力ある講師陣による授業を提供することにより県外に出なくても中央の講師人による授業を受ける環境を整備し学生の県外流出を防止する。 文部科学省が推進しているアントレプレナーシップ教育（企業に関する専門知識だけでなくそのためのマインド醸成も含む幅広い概念）を推進していく。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	入学者数が不安定、減少傾向にある。 医療事務のみでなくセルフメディケーションの視点と地元での経営を担うことが可能な登録販売者取得で就職の選択肢を増やす。	オープンキャンパスなどで参加希望者がなかなか増えない状況であり、他校との差別化があいまいになっている。 登録販売者に関しては中国地区の中で本校と岡山の1校でしか学習できない。店舗数が急増しているドラッグストア業界での就職を目指すことが可能であることをアピールする。	

1-3 学科の将来構想を抱いているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	公務員採用数は年度ごとに変動するため中・長期的視点に立ったの将来像は描きにくい、あらゆる場合にも対応できる充実したカリキュラムは準備できている。	採用数の多寡に影響されない人材の育成を目指したカリキュラムを設定している。 山陰各自治体の情報収集に努めるとともに、学生指導に力をいれ、優秀な人材の育成に努めている。	公務員学科（2 年課程）では、短期公務員学科（1 年課程）ではできない時間的な優位性をいかし難易度の高い公務員を目指すような高い目標の学科の位置づけとする。 自治体 DX 推進に対応できる DX 公務員の育成を目指す。また、その準備、研究も行っている。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	公務員採用数は年度ごとに変動するため中・長期的視点に立ったの将来像は描きにくい、あらゆる場合にも対応できる充実したカリキュラムは準備できている。	採用数の多寡に影響されない人材の育成を目指したカリキュラムを設定している。 山陰各自治体の情報収集に努めるとともに、学生指導に力をいれ、優秀な人材の育成に努めている。	1 年課程であり公務員試験に合格できるチャンスは 1 回しかない。合格できなかった場合は、当初の目標である公務員試験に合格させるため、2 年課程への転学科に向かうように説明していく。 自治体 DX 推進に対応できる DX 公務員の育成を目指す。また、その準備、研究も行っている。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	愛玩動物看護師国家資格取得ができる専修学校が増加傾向にある一方、本校は指定校になっていないため、このままだと動物病院への就職が厳しくなることが予想される。 専門学校の動物関係の団体が一緒になり、大きな団体となる。このことから参加者が増える全国大会では競争が厳しくなるためトリミング技術のレベルアップが急務である。	動物看護師を志す学生は国家資格が取得できる県外の学校へ進学する割合が施行後から増えている。 トリミング技術だけを学ぶ学校に対して、看護とトリミングを学ぶ本校では、トリミングを学ぶ時間数に差があり技術力で勝てない可能性がある。	2022 年度に国家資格である愛玩動物看護師法が施行され、愛玩動物看護師資格が取得できる 3 年課程を検討していく必要がある。 トリミング技術を学ぶ時間数を増やすためのカリキュラム変更。夏休みと春休み期間中の補習による技術力を向上させ全国大会で表彰者を出す。 ペットエステ資格が取得できるカリキュラムの導入。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	IT が学べるというだけで学生が集まる時代ではなくなってきた。IT 教育が社会全体で普及しているためであり、特に高等学校における IT 教育の充実がその一因と考えられる。	IT 教育の低年齢化が進む中で、高等学校の授業で IT について学ぶ機会が増え、高校生の大学進学希望者が増加している。	専門学校で学ぶ内容について高度化していく必要がある。IT 業界との企業連携を深め、現場での実務経験を積む機会の提供やカリキュラムの見直しを行う。高度化を目的に 4 年制コースを設置し今後大学情報系学部併修へ取り組む。 また、大学編入を見据えたカリキュラムの検討が必要。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。認定こども園設置が主流となることを見据え、基本的には、入学者全員が短期大学との併修をし、保育教諭育成を行う。保育者の仕事の責任感ややりがい伝えるため、坪内学園附属認定こども園の実習授業等を多く取り入れることで、学生募集につなげている。	認定こども園が主流となりつつある昨今、卒業後の就職を見据え就職先を幅広く選択できるよう、保育教諭免許を取得するようカリキュラムを組んでいる。また、施設等の福祉関係の就職先も視野に入れ教育を行っている。保育者離れが多くなっている昨今、子どもたちとの関わりが充実するようにしている。	坪内学園附属認定こども園併設という本校ならではの差別化できる教育内容の周知を図り、その効果をオープンキャンパス等で体験してもらう。 給付の企業奨学金契約先を増やして学びやすい環境を提供する。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。自動車業界の人材不足を背景に、今後外国人雇用者数が、日本人雇用人数を超えてくると見据え、更なる即戦力となる人材の育成を実施する。	自動車分野への就学・就職は、日本経済の景気動向に左右されやすいため、中期的な将来構想をたてにくい点もあるが、将来的な構想は抱いている。留学生は日本人と同等の給料待遇になっているため、日本人同様に即戦力となる人材を育成する教育を行っている。	地域や時代の要請にこたえる高等教育機関となるよう今後も構想を立て、都度改善を図っていく。企業より卒業生採用後の意見をいただき、在学中に改善できるものは改善する。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（国際観光ビジネス IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。宿泊業界の人材不足を背景に、今後外国人雇用者数が増加していくと見据え、留学生が即戦力となる人材の育成を実施する。	宿泊業界は人材不足となっており、外国人の雇用も増加しており、観光・宿泊業界への就職を希望する留学生も増えている状況をふまえ、留学生が日本人同様に即戦力となる人材育成に努めている。	留学生が宿泊業界で幅広く活躍できるよう、今後は特定技能試験合格に向けたカリキュラムを取り入れる。

1-3 学科の将来構想を抱いているか（国際日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。今後も留学生が増加すると見込まれ、出身国の多様化にも対応していく。	今後も留学生が増加すると見込み、定員を 120 名から 160 名に増員した。本校では、日本語学科卒業後も日本で学習を継続し、山陰での就職を目指せるよう、国際自動車整備士学科、国際ビジネス IT 学科（2024 年新設）、IT 学科を設置している。	今後も留学生の増加が見込まれるため、定員の更なる増加を図るとともに、専門課程への内部進学を促進する。留学生が日本で安心して生活できるよう、在学中のアルバイトの確保や、留学生にも適用される企業奨学金の締結を推進していく。

基準 2 学校運営

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、施設運営会議で協議決定している。各種検定試験など在校生全員の取得を目標に、また、就職に関しても卒業生全員就職を目標にして運営方針を定めている。	
学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか。	各教職員に伝わっている。	年度初めに学校の重点目標を設定し、それに従い部署毎の重点目標を定め、職員会議で協議し共有している。	
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか。	整備されている。	就業に関する諸規定をはじめ運営に必要な規定を作成し、全教職員が閲覧できるようにしている。	

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、施設運営会議で協議決定している。職員会議にて具体的な計画を立て、定期試験や各種検定試験、講習など在校生全員の取得を目標にあげて実行している。	
学校は事業計画に沿って運営されているか。	運営されている。	事業計画に沿って運営を実施することはもちろん、事業が実施されるたび職員会議で内容の再検討をするなどし、よりよい事業運営ができるよう図っている。	

2-6 運営組織や意思決定機関は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
運営組織図はあるか。	ある。	組織図により、各担当部署の業務が円滑に行われている。	
運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか。	なっている。	不具合があった場合、または現状のままでは不具合が生じると予測される場合、事態に応じて組織の見直しを図っている。また、学生に関することで教職員全体での決定が必要な場合は、臨時職員会議などを開き協議・決定している。	
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか。	明確になっている。	校務分掌、組織図を作成し、職員会議で協議・決定している。	
運営組織や意思決定機能は、規程等において有効に機能しているか。	機能している。	運営組織図があり、組織図に基づく校務分掌がある。伺書兼稟議書には決定区分が示されている。	

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	資格や経験など学校運営の条件に合う人材を確保できている。教職員は、自らの資質を向上させるため上級資格取得に向け、また、担当教科のさらなる知識の習得へ向けて研鑽中である。また、能力及び教授技術向上のための教員研修も年間スケジュールをたてて実施している。	学校運営に必要なと思われる人材育成は重要であり、横並びや年功序列を排除し、適材適所の人材配置を行っている。
人事考課制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し人事考課を行っている。	
昇進・昇格制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し該当者は昇進・昇格としている。	
賃金制度は整備されているか。	整備されている。	勤務規程や給与規程など全教職員に学園の規程を誰でも閲覧できるように管理し、その規程に沿って実施している。規定は随時見直しを行っている。	
採用制度は整備されているか。	整備されている。	採用・不採用の基準は、求人票に沿って実施。雇用時の学校への提出書類や解雇についての定めも規則規程で明記されている。	
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	県・国に提出する学校基本調査の書類内にも教職員情報明記の文書があり、明確に把握している。	

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教務・財務等の意思決定システムは確立されているか。	確立されている。	意思決定が必要な際には、パソコン上で稟議書、報告書などを利用するなどしている。データでの稟議回覧導入により、業務の効率化ができています。	
意思決定プロセスのポイントとなる仕組み（会議など）が制度化されているか。	制度化されている。	職員会議のほかに分野別や階層別会議を開催している。職員会議は議題ごとに参加者全員が意見を述べられるよう司会者（教職員が持ち回りで担当）が運営している。	
意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	組織体制を明確にして人材を配している。	

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
業務効率化を図る情報システム化がなされているか。	情報システム構築がなされている。	教職員が共通使用できる専用サーバの開設により、より速く情報を共有でき効率的である。	教務システム「インフォクリッパー」、学生募集システム「インフォクラウド」を活用している。現システムの活用に加え、新システムの導入も検討する必要がある。
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	なされている。	学校関係者評価委員による学校評価、3つのポリシー、シラバス、自己評価等をホームページに公開している。学校や学科に関するニュースを高校等に隔月で配布している。	

基準 3 教育活動

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	実務に即した技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行う必要があるため、今後行政、企業との強化し、改善を図っていく。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	各業界ニーズに対応する知識、技術を習得するための時間数が確保されている。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	医療事務員及び医師事務作業補助者としての知識だけでなく社会人として必要なマナースキル、PCスキル等を学び、資格取得できる時間の確保ができています。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	試験対策に加え、業界のニーズを踏まえ、公務員として活躍できる人材育成も行っている。また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	試験対策に加え、業界のニーズを踏まえ、公務員として活躍できる人材育成も行っている。また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	公務員試験不合格者への対応を強化し転科制度を利用して次年度再チャレンジさせる。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	動物を取り扱う専門学校数の増加や業界のレベルが上がる中でトリミングの技術を向上させるためにカリキュラムの見直しによるトリミング時間の増加と夏休みと春休みの補習時間を増やし対応する。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。2年間の就業年限でトリマー検定、動物健康衛生管理検定、愛玩動物飼養管理士検定などの分野で活用できる検定を取得できる。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界のニーズを踏まえ、資格取得に向けた科目を設定しており、2年間で段階的に高度資格取得に向けた学習を行い、現場の即戦力となれる学生の育成を行っている。	国家試験対策のカリキュラムを増やし、基本情報技術者試験の合格者を増やす。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行い教育者としての倫理観が身につくよう指導を行っている。保育園、施設、幼稚園、認定こども園等への実習、研修、ボランティアにより、知識、技能等、現場からの意見をカリキュラムに反映し、人材育成、指導を行っている。	認定こども園が主流となっているため、保育士免許だけではなく幼稚園教諭免許も取得し保育教諭となるよう全員短期大学を併修とする。また、グループ園や併設する附属認定こども園と連携し現在の家庭環境、保育教育環境を習得できるよう、カリキュラム内容の見直しを行う。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界のニーズを踏まえた独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。実践力のある保育士を養成するためのカリキュラムとして本校併設の認定こども園において実践的な授業を組み込んでいる。	幼稚園教諭免許取得については原則全員取得とし、保育教諭を目指す。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、最新の技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	2025年度より、新カリキュラムに移行するにあたり、最新式の車両故障診断機を導入する予定。電子制御装置に強い学生を育成するカリキュラムとする。
教育理念、育人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	個々の能力差があるため、個別対応が必要な学生も見受けられた。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。修業年限2年間で2級自動車整備士資格を取得できるが、2023年度の合格率は例年よりも低い結果であった。	2024年度卒業生は全員合格となった。留学生含め、ガソリン・ジーゼル2級自動車整備士国家試験の全員合格を引き続き目指す。

3-10 各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（国際観光ビジネス IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界のニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業との連携により、現場からの意見をカリキュラムに反映し、技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を行っている	

3-10 各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（国際日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。	日本語力向上のための指導だけでなく、日本の生活ルール、マナーを身につけるための授業もカリキュラムに加える。
教育理念、育人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	出入国在留管理庁では、年間760単位時間以上の日本語授業が義務付けられているが、本校では800単位時間以上を確保している。	入学時の日本語レベルが低い学生がある。効果的な学習指導方法の確立が必要。まずは不足学習時間を補習等で補てんする。

3-10 各学科の教育目標、育人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	策定されている。	建学の精神、学科ごとの教育目標、その他目標を立て、年間時間割に合わせ、コマシラバス、教案がある。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	定められている。	ビジネス分野で働くための資格を数多く取得でき、また人間力や一般常識力を実践の中から養うことを目的として取り組んでいる。	検定試験に合格できない学生に対して、理解度に応じた補習を行っている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	定められている。	社会人として求められる人間力や医療事務員としての基本的な知識、実践力の育成、資格の取得を教育目標として取り組んでいる。	検定試験に合格できない学生に対して、理解度に応じた補習を行っている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	全学生が受験する9月に向けて、計画を立てた授業運営を行っている。	学生個々の学習能力等を勘案した、放課後の指導や毎日課題を与えて取り組ませるなど一人ひとりレベルの向上に取り組んでいる。	理解度の低い学生に対しては、個々の理解度に即した個別指導を実施している。また、毎週実施される模擬試験の点数を管理、確認しながら指導をしている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	全学生が受験する9月に向けて、計画を立てた授業運営を行っている。	学生個々の学習能力等を勘案した、放課後の指導や毎日課題を与えて取り組ませるなど一人ひとりレベルの向上に取り組んでいる。	理解度の低い学生に対しては、個々の理解度に即した個別指導を実施している。また、毎週実施される模擬試験の点数を管理、確認しながら指導をしている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直ししている。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。島根県獣医師会等、業界との連携により、カリキュラム内容も見直されている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。また、業界の動向についても情報収集をしている。	資格取得はもちろんのこと、業界の人材ニーズレベルに照らし合わせて内容設定をしている。県外からの進出企業も増えているため、毎年新たな進出企業と情報交換を行っている。また、教育課程編成委員会での意見も活用しカリキュラム内容の見直しを行っている。	検定試験に合格できない学生に対して、理解度に応じた補習を行っている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。坪内学園附属認定こども園、育英幼稚園・育英保育園（2025年度より育英幼稚園）、松江市子育て部等の意見を取り入れ、専門的な実践力、応用力を身につけるためにカリキュラムが組まれている。	理解度の低い学生に対しては、個々の理解度に即した個別指導を実施している。ピアノ技術向上のため補習や見本動画の共有を実施している。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。島根県自動車整備振興会、島根日産自動車株式会社、島根中央ホンダ販売株式会社、業界との連携により、カリキュラム内容も見直されている。	2025年度より自動車整備士養成施設のカリキュラムが見直されるため、各方面へ情報収集を実施し、新カリキュラムでの教育を実施する。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（国際観光ビジネス IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせた内容を設定している。	今後も期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定していく。教育課程編成委員会での意見や企業等の意見を取り入れ、カリキュラム内容の見直しを行っていく。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（国際日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	入学時のレベルごとに、進級・卒業基準を設けている。レベル別の進度を勘案し、課題を与えて取り組ませる等学習の向上に取り組んでいる。そのほか、専門課程進学後の学習を見据え、コミュニケーション力や日本事情についても学べるカリキュラムとなっている。	学生数の増加に伴い、一人の教員では目が行き届かない場合がある。学科教員が連携し、複数の目で学生の指導を行う。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか。	目標達成に向け充分協議された内容であり、体系的に編成されている。	目標達成レベルに対して教育時間および学習指導内容が適切であるかどうかは常に教務で話し合われている。また、これらについては毎年見直し、職員会議で協議決定している。 企業、団体から組織された教育課程編成委員会の意見を取り入れ、カリキュラムの作成、改善をしている。 専門教育質向上委員会を設置し、課題提議解決案を毎月行っている。	
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか。	明確になっている。	教務部において協議し、作成したものを校長が承認している。	
カリキュラムを定期的に見直しているか。	定期的に見直している。	時代ニーズ、学校の目標などに合っているかどうかなど毎年検討している。見直しがある場合は、職員会議で協議決定し、より効果的なカリキュラム編成となるようにしている。 年に2回の教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムの見直しを行っている。 専門教育質向上委員会を設置し、課題提議解決案を毎月行っている。	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	実施している。	各業界で実務経験のある教員が充実しており、実践的な職業教育ができています。 カリキュラムの中にキャリア教育に関する科目が設けられている。就職支援の指導に加え、望ましい職業感の育成を行っている。	キャリア教育の授業を体系化し早期離職防止対策の教育も行っていく予定である。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次にインターンシップを実施している。 授業の中で企業の経営者等による講話を実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し1年次、2年次にインターンシップを実施している。特に2年次は内定先でのインターンシップを実施し、職場環境や仕事内容を把握できるようにしている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	行政機関等よりオンラインも含め、講師を招き公務員としての心構えなどを学ぶ授業を実施している。 1年次にインターンシップを授業として取り入れている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	行政機関等よりオンラインも含め、講師を招き公務員としての心構えなどを学ぶ授業を実施している。インターンシップを授業として取り入れている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次にインターンシップを実施している。看護専攻の2年生は動物病院での実習を実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次と2年次にインターンシップを実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	1年次及び2年次に、提携している保育園、認定こども園、施設等での保育実習、こども園実践演習Ⅰ、Ⅱを体系的に位置づけ、実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。実習事前・事後指導、研究テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次ともに実務実習をとりいれ、業界の最新の技術、知識等を学んでおり、新規企業へインターンシップ実習の実施、技術講習会の開催をしている。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（国際観光ビジネス IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と連携し、1年次と2年次にインターンシップを実施している。また、宿泊企業への授業見学会を実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、実習の振り返りと今後に向けた発表等を行っている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（地域経済医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	適正である。	目標とする検定合格に向け、講義及び演習のバランスを配慮した科目設定と時間数を設定している。 教育課程編成委員会等において、外部の方からのアドバイスを頂きカリキュラム編成に生かしている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。	適正である。	目標とする検定合格に向け、集中的に学習できるよう時間割を設定している。 医療事務員としての知識の習得、実践での対応といった内容やビジネスマナー、PCスキルなど医療現場で求められる項目で設定されている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。	適正である。	公務員試験における出題割合・重要性を考慮した科目と時間数を設定している。 また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（短期公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。	適正である。	公務員試験における出題割合・重要性を考慮した科目と時間数を設定している。 また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに、本校独自科目を置いている。また、時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した一般教養も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	IT 業界で必要とされる「国家試験」、プログラミング技術を証明する「実技系の資格試験」とどちらも取得を目指すよう科目を設定している。さらに、企業で必要とされる IT 以外の一般教養についても設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに厚生労働省の規定により設定している。時間数においては、適切に設定している。また、業界ニーズに即した本校独自科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに国土交通省による指定科目、本校独自科目を置いている。また、時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した一般教養も設定している。	2025年度より自動車整備士養成施設のカリキュラムが見直されるため、各方面へ情報収集を実施し、新カリキュラムでの教育を実行する。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（国際観光ビジネス IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は目標とする検定合格に向け、講義及び演習のバランスを配慮した科目設定と時間数を設定している。また、日本語・英語、ビジネスマナーや PC スキルが習得できる科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（国際日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	レベル毎に、読解、聴解、口頭表現など技能別に科目を設けている。また、「総合日本語」では、文化学習も含めた実践的な授業を行っている。	今後は新たな日本語教育機関の認定制度をふまえて、JLPT N2 合格に向けた授業とともに、JLPT の試験科目にない「話す」授業に、これまで以上に取り組んでいく。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか。	作成されている。	各学科で科目毎にシラバスを作成している。	
各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。	作成されている。	各学科で科目毎にコマシラバスを作成している。	

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生による授業評価を実施しているか。	年に2回、学生による授業点検アンケートを実施している。	授業点検アンケートを実施している。結果は職員会議で報告・検討している。学校関係者評価委員会でも、結果について意見をいただき改善に努めている。	アンケート項目と回答の選択項目数の増の見直しを行う。
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか。	体制がある。	教員研修のなかに、模擬授業の実施、実際の授業の参観関連業界の方への公開授業があり、そこで授業方法についての評価を行っている。	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	取り入れている。	教育課程編成委員会があり、年2回実施。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分に対応しているか。	業界レベルに十分対応している。	専門分野の教員は全員、本校の学科内容に該当する業界の専門分野で必要とされる資格などを有している。	保有している資格の更に上位の資格取得を目指していく。
教員の専門性を向上させる研修を行っているか。	研修を行っている。	専門分野や関連業界に関する内容について研究を行い、専門性の向上を図っている。専門性を向上させるための外部研修会などに積極的に参加。都度、伝達研修も実施している。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格など）を備えた教員を確保しているか。	教員確保をしている。	関連業界での実務経験、関連資格を持つ教員を確保している。専門分野のスキルアップ及び教授力の向上を図るために研修・研究を行っている。また、分野外の資格取得に向けても取り組んでいる。	未取得資格の取得に向けた自己研鑽を行い、さらに知識を深め指導の質のさらなる向上を目指す必要がある。
教員の専門性を適宜把握し、評価しているか。	把握・評価している。	学生が実施する授業点検アンケートにおいて授業評価をしている。専門性についても把握しているが、これにとどまらず専門性を広げるための自己研鑽も奨励している。	
教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか。	把握、評価している。	学生が実施する授業点検アンケートを参考にしながら適性を評価するとともに、授業参観などにより教授力の把握と評価を実施。必要があれば、職員会議で指導方法など協議検討している。	
教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか。	研修内容を年間で決定し、実行している。	職員研修によって、授業内容や、教員として必要な資質を高めるよう努めている。教授力に関しての外部研修会などにも参加。都度、伝達研修も実施している。	
教員間で協業しているか。	協業している。	各科目はシラバスに沿って授業を実施。そのため、改善点などが発生した場合は、該当全教員で検討、改訂し実施している。また、全教職員が協業に努めている。	
関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務・勤務）を確保するマネジメントが行われているか。	行われている。	関連団体に加盟し情報収集し、優れた教員の確保に努めている。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
非常勤講師の採用基準は明確か。	明確である。	実務経験や現場に即した知識・技能などを十分に備えた人材を採用している。	

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	明確になっている。	成績評価・単位認定の基準を坪内学園教務規程で定め、それらに準じて実施している。「キャンパスガイドブック」に明記し、学生・保護者にも入学時に伝えている。	「キャンパスガイドブック」をホームページでも閲覧できるようにする。

3-17 資格取得の指導体制があるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか。	明確に定められている。	目標とする取得資格に関しては、全て授業カリキュラムに取り入れている。このカリキュラムに関しては、学生・保護者にも入学時に伝えている。	
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか。	資格取得のための教育内容になっている。	資格取得のための履修時間数を示す授業時間数表やシラバスに沿って、テキストなどを使い授業を進めている。授業内小テストで不合格の場合など補習を実施。また、受験会場について、本校で可能な資格も多く受験環境にも配慮している。	学生の学力向上に向け、授業の指導内容と補習の見直しと改善が常に必要である。
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	ある。	資格試験日に合わせカリキュラムを構成し、授業計画を立てている。加えて、試験対策等の補習を実施している。	資格取得が年後半に集中する傾向があり、試験対策を計画的に行う必要がある。

3-18 教育活動においてデジタルツールを活用しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
オンライン授業やハイブリッド授業がスムーズに実施できるか。	実施できる。	ZOOM、Teams を全学生、教職員が使用できる環境にある。	
電子教科書やオンラインリソース、生成 AI を活用しているか。	活用している。	生成 AI は必要に応じて活用している。 2024 年 4 月から一部の学科でオンラインホワイトボード「Miro」をオンライン授業で活用している。これにより離れた場所にいながら内面のようなコミュニケーションをとることができるようになる。	生成 AI、Miro 以外にも便利なツールがあることから研究していく。

基準 4 教育成果

4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。	図られている。	求人数などに関するデータを随時把握し、学生支援委員会及び職員会議で就職活動に関して常に協議検討し、教員と就職担当者、キャリアコンサルタントがともに求人獲得のため動き、就職活動に関する授業、履歴書指導、面接練習などを実施している。 就職ガイダンスを毎年、1年次の夏休み前に開催しスムーズな就職活動へつなげている。 「金曜ガイダンス」を実施し放課後に企業・法人担当者による説明会を実施。 ボランティア活動、企業・法人訪問など、早期から積極的な就職活動を行っている。	
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	年度ごとに就職先のデータを作成している。また、就職活動に関する受験先などのデータも作成し学校全体で共有把握している。	新規求人獲得のための活動を行う必要がある。

4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
資格取得率の向上が図られているか。	図られている。	適切な授業時間数を確保し、理解度を高める授業内容・方法の工夫を常に行っている。検定未取得者には補習などを行い、資格が取得できるまで挑戦させている。取得率の低い科目については、授業内容の見直しも随時行うようにしている。	1回目で合格出来なかった検定は合格するまで受験する。そのために必要な補習を行う。
資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	明確に把握している。	取得に関するデータは常に職員会議で報告され、協議・検討している。	

4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
退学率の低減が図られているか。	図られている。	学生支援委員会及び職員会議において学生状況を共有することにより、退学者防止に努めている。学納金支払いが原因で退学者が出ないよう本校独自の奨学金や分納制度の利用などで対策をとっている。また、担任との面談を年に複数回実施し、学生支援センターで学校生活の相談を随時できるなど退学防止の体制がある。	出席率が低下した学生に対して、保護者へ連絡し、担任・学生支援センターが一体となりサポートを行う。 担任から日々声かけを行い、学生の把握につとめる。
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	入学願書、退学届の保管・管理。	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	行われている。	本校職員が高校へ出向し、進路講話(進学または就職)、職業別講話等を行っている。	事前調整を行うことにより、入試センターの職員ではなく、学科教員が対応できるようにしていく。

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	把握している。	就職担当教員が各企業訪問を実施し、卒業生の勤務状況などを把握している。	社会的な活躍については、今後引き続き活躍状況の把握に努める。
卒業生の例として特筆すべきものがあるか。	評価されているものがある。	企業ガイドブック、地元新聞等で仕事の様子が発信されている。 本校独自の企業ガイダンス開催時には、OBが企業側の担当者として多数参加して活躍している。	より多くの卒業生の技術が評価されるよう学校として力を注いでいく。
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校教育活動の改善に活用されているか。	活用されている。	教育課程編成委員会には、卒業生の就職先企業の方がいるため、状況を把握できる。就職担当者の企業訪問を通じて卒業生の状況を把握している。また、学生のインターンシップ、実習での教員巡回の際などにも卒業後の様子について情報収集できる。必要であれば、教育活動の見直しなどを図るようにしている。	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	整備されている。	一般入試制度において社会人の受け入れを行っている。 教育訓練給付制度を取り入れている。 離職者等再就職訓練事業の長期高度人材育成コースの訓練を受託している。	長期高度人材育成コースについては、ハローワークへの情報収集や営業活動を行っていく必要がある。また必要な情報をホームページで公開していく。

基準 5 学生支援

5-23 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	各学科、担任制をとっており、学生は担任へ相談することができる。また、就職等の相談の部署として学生支援センターを備えており、学生は常時利用可能。さらに隔週学生支援委員会を開き学校全体で学生の進路について情報共有している。	
就職に関する説明会を実施しているか。	実施している。	企業・法人ガイダンスを年1回実施し、各企業等の人事担当者などにより直接説明を受けている。 金曜日に個別企業を対象にガイダンスを行っている。	金曜日に行っている金曜ガイダンスを今まで以上に活用していく。
就職に関する学生個別相談を実施しているか。	実施している。	1年時に、学生全員を対象とした各担任との面談を実施している。また、5月、11月には保護者面談も実施。 その後は、必要に応じて担任及び学生支援センター教員が個別相談を実施している。	大半の学生は自主的に就職活動を行っているが、就職活動に消極的な学生に対しては声かけを行い、丁寧に支援していく。
就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか。	実施している。	授業カリキュラムで就職活動に関する時間を設け、履歴書作成などを行っている。必要に応じて放課後などに学生支援センター教員が個別に指導している。	

5-24 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	特に学生相談という枠を設けず、いつでも担任に相談できる体制をとっている。学生支援センター職員も常時相談に応じる体制である。	
学生相談室を開設しているか。	開設している。	学生支援センターを設置して専任の職員を配置し、常時相談に応じる体制である。	
学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか。	いない。	就職に関しては、キャリアコンサルタントを配置している。	
留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	有効に機能している。	学生の相談内容に合わせ、担任または国際支援センターの教員が対応している。	

5-25 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか。	整備、機能している。	成績優秀者奨学金付与制度や学業支援授業料減免制度（学費一部免除制度）、学納金分納制度などがある。学生へは入学時や入学後に説明会を実施している。また、入学時のみならず進級時にも利用できる成績優秀者奨学金付与制度を導入している。	
奨学金制度が整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	時期に応じて奨学金制度の告知、説明会を実施している。利用者あり。	2025年4月から日本学生支援機構の制度が拡充されるため学生、保護者に対して周知を行う。
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか。	整備され、有効に機能している。	本校独自の奨学金制度を導入している。高等教育の修学支援制度授業料等減免事業に対応している分納制度を導入している。	

5-26 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか。	支援体制がある。	定期健康診断の実施 保健室の設置。 AED 設置。	

学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか。	特に設けていないが、学生の体調不良時には相談窓口があり、授業担当者や担任と連携して対応している。	学生健康診断の管理を行っている。要精密検査が必要な学生には個別に担任から受診を指導している。健康面で配慮が必要な学生には対応している。学生の健康状態で必要なことがあれば保護者に連絡するなどしている。	
学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか。	専門医はいないが、車で数分のところに総合病院があるため、必要であれば直ちに搬送するよう体制をつくっている。	看護師としての実務経験を持つ教員がいる。	

5-27 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
スポーツクラブ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。	コロナが落ち着いたことから、各種活動は順次再開している。	年間スケジュールを組み各学科ごとに取り組んでいる。自由選択科目として「実践ボランティア」という科目を設け、学生の自主的参加を促し、単位認定を行っている。学園祭で献血車を呼び、実施している。	ボランティア活動を重視し2025年度からカリキュラムで必須科目とする。実践ボランティアの授業を通して1年生全員が活動をする。

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	行われている。	学生寮（学生会館）がある。寮での生活方法などについて指導・助言している。	

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
保護者と適切に連携しているか。	連携している。	保護者代表を選出し、学校関係者評価委員を委任している。また、学外での活動への参加に協力をいただいている。毎年5月・11月には保護者面談を実施している。また、就職や学校生活に関してなど、必要に応じて適切に連絡をとりあうようにしている。	

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
同窓会が組織化され、活発な活動をしているか。	活動している。	同窓会組織を設置しており定期的に同窓会を実施している。	
卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか。	仕事に関する事や資格取得などのフォローアップをしている。	来校する卒業生に対して、教員が時間を設け対応している。	

5-31 学生の多様性（障害を持つ学生、日系人・外国人学生、外国人留学生等）への対応が適切に行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校全体として、異なる背景を持つ学生の受入とサポートが進められているか。	進めている。	特別支援学校の卒業生や発達障害のある学生を受け入れている。	教員の負担が重い。それぞれの特性を理解することが必要。
文化適応支援、障害を持つ学生へのバリアフリー対応や学習支援、外国人留学生向けの日本語サポートがなされているか。	行っている。	すでにスロープやエレベーターは設置している。外国人留学生向けには専門部署を設置し対応している。	2024年4月から「合理的配慮」が義務化されたことから対応方針の策定が必要である。

基準 6 教育環境

6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	本校での教育上必要であると思われる施設・設備を整備している。	資格取得など学習に必要な施設・設備を整備している。	
施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか。	整備されている。	専門業者によるメンテナンス、セキュリティ管理を行っている。施設・設備に破損などがあった場合は、補修もしくは再購入などで対応。また、点検が必要な施設に関しては定期的に点検を行っている。	
施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか。	更新されている。	カリキュラムに沿って必要な設備を購入するなど、計画的に更新している。	

6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか。	外部企業と十分な連携をとりながら学外実習及びインターンシップを実施している。	企業との締結のもと、授業として学外実習及びインターンシップを実施している。教員が実習先の巡回をして学生の様子を把握している。また、学生が作成する日誌・レポート等を通して実施の成果を確認することができる。	
学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか。	実績と教育効果を確認している。	研修後、学生が作成するレポート等を通して十分な効果があることを確認している。	

6-34 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向

防災に対する体制は整備されているか。	整備されている。	災害時における具体的な行動マニュアルなどを整備している。	
災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか。	伝えられている。	機器の取扱については十分に注意を払うよう指導している。	
実習時等の事故防止の体制は十分か。	十分とっている。	機器の取扱や作業方法など、事故が起こらないよう動物学科では、細心の注意を払っている。	現状維持も含め、今後、事故が起こらないよう努力を続けていく。
防災訓練を実施しているか。	実施できている。	教職員・学生参加で総合（通報・避難・消火）訓練を実施している。	地震についての訓練も必要で検討している。

基準 7 学生の募集と受け入れ

7-35 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集活動は、適正に行われているか。	適正に行われている。	誇大表現は避け、教育内容紹介などに関しては真実性と明瞭性に配慮したものとなっている。 従来型のテレビ、新聞広告などから SNS 中心にした募集活動への転換途中である。	SNS での情報発信から募集へとつなげる流れを構築させる。 学生情報を得るためのガイダンス、学校見学、オープンキャンパスの集客に注力する。
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか。	志望者・保護者等の立場に立ったものとなっている。	学校側が伝えたい事項、求める側が知りたい事項の伝え方として、掲載内容や表現方法を再考し、わかりやすさを重視した。	引き続き、求める側のニーズに快く情報が届くような学校案内の作成およびホームページ運営、情報発信に努める。
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか。	体制がある。	専門部署を設置し、直通のフリーダイヤルやメールアドレスを整備。問合せ・相談には専任職員が対応している。 SNS を活用した問い合わせや相談にも対応している。	問い合わせや相談からオープンキャンパスへとつなげる仕掛けづくりが課題である。
募集定員を満了募集活動となっているか。	十分でない学科もある。	昨年対比で出願数・合格者数は増えたが、定員に達していない。	質の高い教育、カリキュラムの工夫が必要である。ガイダンス、オープンキャンパスも魅力や楽しさを伝える工夫が必要である。

7-36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか。	ほぼ伝えられているが、卒業生の活動に関してはもっと伝えていく必要がある。	山陰各地で本校卒業生の活躍、現状を確認することができるが、アピールが足りていない。	学生支援センターと連携し、松江市だけでなく山陰各地で活躍している卒業生にコメントなどもらいパンフレットやチラシなどでアピールしていく。
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか。	持っていない。	活躍等、教育成果が学生募集に貢献したかどうか認識するための調査等を行っていない。	引き続き、卒業生の今後の活躍状況を伝える機会を作り、入学生への聞き取りも検討が必要である。

7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。	行われている。	入学選考方法の基準を示し、募集要項に記載している。	
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	毎年、入試に関するデータを作成し、学生募集の際の資料として使用している。	

7-38 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	教育内容や関連経費、保護者・学生の経済的状況などを考慮した妥当なものとしている。	
学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	学納金に関する情報は、毎年正確に把握・記録している。	

基準 8 財務

8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	ほぼ安定しているといえる。	現在の時点では安定しているといえる。ただ、本校に限らず今後の経済状況の変化や少子化による影響も出てくる時期があると思われる。	
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか。	把握している。	財務については監査会、評議員会及び理事会において報告・承認を得ている。	

8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	予算、補正予算をたて、計画に基づいて運営を行っている。	当初予算の立て方を根本的な見直しを検討していく必要がある。予算作成に向けた準備の前倒し。
予算は計画に従って妥当に執行されているか。	妥当に執行されている。	監査会、評議員会及び理事会において報告、承認を得ている。	

8-41 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向

財務について会計監査が適正におこなわれているか。	適正に行われている。	監査会を実施している。	
会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか。	妥当である。	年間スケジュールを立てて実行している。	

8-42 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか。	できている。	ホームページに公開している。	
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか。			

基準 9 法令等の遵守

9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか。	適正な運営がなされている。	県・国に関係書類を提出し運営許可を得ている。また、法令や設置基準に対しては、改正が行われるたびに県、国に確認をとるなどし、把握と遵守を行っている。	
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	実施している。	法令遵守については、学生は授業内で学習。教職員に対しては法令や基準の変更などが発生する都度、伝達し実施している。	

9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	対策がとられている。	個人情報の記載されたファイルなどは、指定された人および場所で管理している。	
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	行っているが継続して行っていく必要がある。	教職員の個人情報に関する研修会への参加に加え、教職員は個人情報保護についての意識をもち業務にあたっている。学生に対してはビジネス教育の授業で実施している。	新人職員もいることから定期的に個人情報保護法の研修、コンプライアンス研修を行う必要がある。

基準 10 内部質保証

10-45 教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校教育、学校運営について、自己点検・自己評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	定期的を実施。改善に努めている。	職員会議にはかり、全教職員が自己点検・自己評価に参加。問題点の改善に努めている。学校関係者評価委員による評価も活用している。	
学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	確立している。	自己点検・自己評価は、学校運営状況および学校運営向上のための取り組みなどを、より多くの人に理解してもらうことを目的としている。	
自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	伝わっている。	H Pで公開することにより、その意図は学内外問わず多くの関係者に伝わっていると推測される。	

基準 11 社会貢献・地域貢献

11-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか。	取り組んでいる。	学校内の自動販売機の売り上げの一部を交通安全協会へ寄付している。学園祭にて献血を実施した。	今後も学園祭に献血車を呼ぶことを準備している。
広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか。	図っている。	教育機関や企業・団体等と連携をとりながら学生の資格取得や技術習得の機会を設けている。	
学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか。	連携している。	毎年 10 月に学園祭を実施しており、外部の方が学校施設、設備に触れる機会を作っている。 松江市と連携し災害時にはペット同伴福祉避難所として学校施設を提供する。	
重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓発活動を行っているか。	行っている。	重要な社会問題について、各担当がホームルームや授業内で取り上げるなどしている。 教職員に対しては、職員会議や終礼、研修会などで啓発活動を行っている。	

11-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	奨励、支援、把握している。	自由選択科目として「実践ボランティア」という科目を設け、学生の自主的参加を促している。 企業・施設等からのボランティア募集依頼があった場合は、都度、学生に紹介している。 学校単位で施設等への清掃活動や行事参加などを推進している。いずれも年間スケジュールを立て、全学生が参加している。 こども学科は園へボランティア活動の積極的参加を行っている。特に障がい者の会へボランティアに出かけている。	献血車を学園祭に呼び献血実施予定である。 2025年度よりボランティア活動を必須科目としてカリキュラムに位置づける。
学生のボランティア活動の状況を把握しているか。	把握している。	自由選択科目「実践ボランティア」では、実施の報告書の提出により活動状況を把握している。 学校への企業・施設等からのボランティア募集は、学校が参加者のとりまとめをし、実施先との連携をとっている。 学校指定のボランティア活動は授業カリキュラム内にも設定。教員も付き添っている。 (参加例) 松江市身障者大会へのボランティア 動物学科の松江保健所のイベントボランティア こども総合学科の学生による各保育施設ボランティア	

11-48 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	積極的に実施している。	松江市、出雲市の高校に出向き IT や公務員の出前授業を行っている。また、一部の高校では、本校に学生が出向き授業体験を行っている。 長期委託訓練事業は、積極的に受け入れを行っている。 短期委託訓練事業は、出雲市の定住外国人を対象に日本語およびPCの訓練と就職支援を行っている。	高校への出前授業はさらに拡大したいが教員の負担もありバランスが難しい。移動時間の負担を考えるとオンライン授業の検討も必要。

基準 12 国際交流

12-49 留学生の受け入れに適切に対応し、管理体制を整備しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか	適切に実施している。	国際入試センターを設置して、留学生募集専用のスカイプやメールアドレスを整備し、募集・問合せ・相談に専任職員が対応している。SNS を活用した問い合わせや相談にも対応している。在籍管理においては、法務省から特に在籍管理が適正な学校として「適正校（クラスⅠ）」（旧「在籍管理優良校」）に選定されている。	問い合わせや相談からオープンキャンパスや学校見学への参加、入学試験への応募へと確実につなげる仕掛けづくりが課題である。
留学生の学習、生活指導等に対する適切な体制を整備しているか	体制を整備している。	いつでも担任や学科の教員、国際支援センター職員に相談できる体制をとっている。生活指導等については国際支援センター職員を中心に随時指導を行っている。児童クラブの児童との国際交流会の開催や学園祭への参加など授業以外にも日本文化の学習や日本人との交流の機会を設けている。	日本での生活習慣等を確実に身に付けさせるため、生活のしおりの見直しを図った。また英語表記による周知にも務めている。